



塩竈市杉村惇美術館『こどもと伝える 海とみなとまちの風景展』の展示作品を前に

しんしゅんていだん
特集：新春鼎談

塩竈市議会議長

カメイ(株)代表取締役社長

塩竈市長

香取 嗣雄 × 亀井 文行 × 佐藤 昭

本市のまちづくりの基本である「長期総合計画」と復興の道筋を定めた「震災復興計画」の計画期間も残り約2カ年となりました。

少子化による人口減少と高齢化が進む中で、「復興から持続可能な発展」へと、今後は先を見据えた新たなまちづくりを進めていく必要があります。

そこで今回は、本市を創業地とするカメイ(株)の代表取締役社長 亀井文行氏をお招きし、市長、議長とともにお話いただきました。

市長 新年あけましておめでとうございます。健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶びを申し上げます。

さて、東日本大震災から、まもなく8年を迎えますが、市民の皆さんのお力添えをいただき、住まいの復興については、相当前進したものと思っております。一方、今後の課題は、産業経済分野の復興ではないかと思っております。

そこで、今回はカメイ(株)の亀井社長をお招きし、「ふるさと塩竈」の思い出をはじめ、これからの塩竈のまちづくりなどについて、さまざまなお話を伺いたいと思います。

ふるさと塩竈の思い出

亀井 塩竈には高校1年まで住んでおりましたので、思い出もたくさんあり、今でも、私は「塩竈人」だと思っています。

昭和30年〜40年代は、高度経済成長の時代で子どもがたくさんいましたので、悪いことをすれば他人の子どもでもしかたてくれる。そんな時代で、自分も塩竈というまちに育ててもらったと思っています。

また、当社も明治36年に私の曾祖父、亀井文平が塩竈で創業



▲大正5年(1916年)ごろの亀井商店門前店(現・宮町)での集合写真



▲法被の「こうもり印」は日本石油の社章

しまして、今年創業116年目を迎えます。ここまで続けてこられたのも、塩竈の皆さまに支えていただいたおかげだと思っています。これからもう少しでも地域の活性化の役に立ちたいと願っているところです。

議長 私は4歳のころ塩竈に越してきました。小学校に入学したころは、小中学校の増改築が多く、父親が左官業を営んでおりましたので、私の入学式には父が仕事の格好で来てくれたことを覚えています。

以来この地で、市民の皆さんにお世話になりながら生活しています。

市長 当時の日本は、高度経済成長で、地域全体が産業活動に頑張っていた時代でしたが、その原動力である燃料の販売が御社のスタートですね。

港湾の発展とともに：

亀井 初代社長は岩手県出身で、仙台の商家で修行を積み、20歳の時に塩竈の港湾都市としての将来性に着目し、明治36年に亀井商店ののれんをあげました。今は更地になっていますが、宮町の丹六園さんの隣の場所で、砂糖やせっけん、灯油など、あらゆる雑貨類を手掛けていました。その後燃料としての石油の可能性と将来的な需要の大きさに目を付け、明治41年、日本石油(現在のJXTGエネルギー株)の代理店の権利を得て、三陸の漁場の発展、船の大型化、塩釜港の繁栄とともに成長させていただきました。

市長 その当時、石油の重要性を認識されていたのは先見の明ですね。

亀井 初代社長が石油に着目したことが基礎となり、今まで続けてこられたと思っています。

市長 塩釜港の繁栄というお話もありましたが、塩竈の発展の基礎を築いたのは海上物流の拠点、港湾であります。

今は、国際拠点港湾の指定を受けているほか、特定第三種漁港にも指定されており、本市は港湾、漁港をまちづくりの中核に置いてきました。

変化の時代にこそ、チャンスが生まれる

亀井 企業を取り巻く環境はさまざまな課題が山積しています。どの業界も革命的な変化が加速し、これまでの常識や経験が通用しない時代です。変化に対応できるものが生き残れるのです。ようし、変化の時代にこそビジネスチャンスが生まれると確信しています。

一方、時代が変化しても「地域社会に密着し、人々の生活に役立つ」という当社の活動理念は不変です。常に「お客様のお役に立つ」企業でありたいと思っています。

市長 変えるべきものと変えて



▲仙台塩釜港(塩釜港区)の臨港地区にある石油コンビナート

はならないもの。それを見極めるのは難しいですが、本市のまちづくりでも参考にさせていただきたいと思います。

議長は、どちらかというと、建設産業に数多く関わられてこられました。塩竈での変化についてはどうですか？

議長 私たちの業界のことを言えば、自分のできる範囲で仕事に取り組んでいる状況です。昔と違って、左官業の仕事も少なくなってきました。それでも、地元の皆さんにお世話になりながら、何とかやってこられたかな。と思っています。

亀井 塩竈市も、人口減少や少子高齢化の進展、基幹産業である水産業の停滞など都市基盤の課題があると伺っています。

一方で鹽竈神社や良好な港、歴史文化、豊かな自然などがたくさんあり、誇れるまちだと思えます。

私の趣味の一つが、全国に100カ所ぐらいある一ノ宮巡りで、食事ができるお店などがたくさんあって、参拝者も増えています。塩竈はポテンシャルが高いので、観光客の誘致に力を入れてはどうでしょう。

行政と民間がアイデアを出し合って取り組みれば、全国的にも有名な素晴らしい「まち」として認知してもらえないのではないのでしょうか。

市長 今、海岸通1・2番地区市街地再開発事業の中で、「直会横丁」という名称の施設を整備し、鹽竈神社を参拝いただいた観光客の方々に寄っていたら、再開発組合の皆さんが実現に向けて取り組んでいます。**亀井** もう一つ観光で大事なものは「食」と「買い物」です。いくら景色が良くても、食べ物が良く

ないと喜ばれません。皆さん、どこでも「食」と「買い物」を楽しんでいます。

これから求められる人材とは

市長 企業として、また、まちづくりを進めていく上でも、一番大事なのは人材育成だと思っています。本市でも、三代目社長、故亀井文蔵氏に「カメイこども」の夢づくり基金の資金をご寄付いただき、小中学校の蔵書整備など、塩竈の子どもたちのために活用させていただいています。

亀井 人材育成は、当社が最も重要視していることの一つです。社是の一番目に「信用第一」を掲げています。どんなに経営環境



▲海岸通1番・2番地区再開発事業の中で整備計画されている「直会横丁」イメージ図

が変わろうと、機械化やIT化が進んでも、結局は「人」です。いろいろな人たちと信頼し合える関係が一番大切です。社員には、商品知識やプレゼンテーションも大事ですが、信頼関係が築けるような基本的な姿勢を大事にして欲しいと伝えています。同時に、社会が変化する中で、さまざまな価値観をもった人材の活用も重要で、そうした多様性の集まりが組織の活性化などに繋がると思っています。

議長 その人を募って人が集まり、みんなで協力し合って何かを成し遂げる。そういった誰からも信頼されるような人材が組織には必要だと思いますね。

市長 自治体の場合、組織の活性化を考えたとき、民間事業者の方々と連携しながら、民間のノウハウを行政に導入する、といった相互交流が必要なのではないかと思っています。地元企業とどういった連携を築いていけるか、さらには議会にも入



っていたら、議会と行政、民間の方々と相互に意見交換ができるような場を設定していけたらと思います。

亀井 そういう機会があれば、ぜひ参加させてください。我々が今あるのは、塩竈市のおかげなので、お役に立っているのであれば……。

市長 人材育成の重要性についてお話しいただきましたが、具体的な取り組みはありますか？

亀井 毎年全社員、研修を受けるようにしておりますが、新しい時代をクリエイトする人材を、プログラムの中で育成するというのは難しいですね。

市長 組織の中でいかに人材を育てていくか、ということですね。

亀井 当社ではこの2、30年で貿易、食糧関係などM&A(企業の合併、買収)を行ってきました。その取り組みが刺激となり、社内が活性化されたということはあったと思います。



議長 旧態依然のままでは進歩がないですからね。

市長 本市でも東日本大震災のとき、県外の自治体から職員を派遣いただきました。同じ自治体職員でも自治体によってやり方が全く違うので、派遣職員からいろいろな意見をいただき、このことがきっかけで、組織機構の見直しの必要性も改めて感じました。

「郷土愛」を育むまちづくり

亀井 当社にも塩竈出身の社員が多くおりますが、塩竈で生まれ育った人たちは、ふるさと「塩竈」に対して特別な思いを抱いており、郷土愛が強い人たち



▲大正13年に建てられた旧亀井邸。観光拠点施設の一つとして、年間を通してさまざまなイベントが開催されています

が多いと思います。

市長 亀井社長のお父様、三代目社長にも塩竈を大切に思っていたいただきました。われわれも郷土愛を持っていただけるようなまちづくりを進めていかなければと思います。

議長 塩竈にはそういうものが自然に育っていると思いますよ。

市長 現在、亀井社長の生家をお借りして、さまざまなイベントなどを開催しておりますが、「この場所から亀井さんがスタートされた」ということを、我々も誇りに思っています。

全国に向けた情報発信を

市長 最後に、塩竈のまちづくりで、特に力を入れるべきというようなことがあれば、お話いただきたいと思います。

亀井 課題はあると思いますが、全国に注目していただける「情報発信」と「観光誘致」に力を入れていただきたいと思っています。積極性や発信力がないと人は来てくれません。これほどポテンシャルが充実しているところはないと思いますので、その魅力をさらに磨き、全国の人が「塩竈に行きたい。塩竈は楽しいまちなんだ」と、思ってもらえる力ですが、出来ることがあれば



▲塩竈の魅力発信のため、行政、市民、事業者が、観光とこれからのまちづくりについて自由に意見を出し合った「みんなくるくる談義」

協力していきたいです。

議長 議会としても、当局そして市民と一つになって、塩竈の魅力を発信できるように頑張らなければならぬと思います。

今年のキーワードは

「競争と協調」

市長 今日は塩竈のまちづくりについて、まさに「正鶴を射る」お話をいただき感謝申し上げます。平成31年のキーワードは「競争と協調」にしたいと思っております。

まちづくりを進めていく上で、近隣自治体と協力して取り組むべきこともありますし、一方で、各自自治体が競争しながらそれぞれ

れ切磋琢磨し、競争心を持つことも大切なことだと思っています。

亀井社長からお話がありましたように、全国に向けてさまざまな情報を発信し、「塩竈でこんな楽しいイベントがある」と、言っていただけのような活力あふれるまちにしていきたいと思っております。

亀井社長には引き続き、ご指導ご助力をいただけますようお願いいたします。

今日は本当にありがとうございます。



▲「塩竈市杉村惇美術館 サロン」で、収録を行いました